



かしま友愛

第29号

2015年6月19日

社会福祉法人
加島友愛会事務局

大阪市淀川区加島1-60-36

☎ 06-6101-6601

理事会・評議員会開催される



五月二十三日(土) 加島友愛会の二〇一五年度第二回理事会・第一回評議員会が、理事・監事・評議員・施設長・本部署務局などが出席して開催され

ました。

最初に法人を代表して、平田理事長から挨拶がありました。

その中で、「職員数は三百人を超える法人となった。稼働率を重視し、今後ともテコ入れをしていきたい。また旧加島人權文化センター跡地を入札で獲得した。今後の事業展開を考えていきたい」と、今後の展望が述べられました。

議長に市村評議員を選出し、西岡常務理事が二〇一四年度事業報告(三画)、松山副理事長が決算報告(別紙)をおこない、熱心に討議され採決されました。

かしま障害者センター 夕涼み会

7月25日(土) 17時

夏の
予定

加寿苑 夏まつり

8月15日(土)

16時30分



旧 加島人權文化センター跡地を購入

コラム

かしまの光

政令指定都市・大阪市を廃止し特別区に分割する、いわゆる「大阪都構想」の住民投票が五月十七日におこなわれた。結果は僅差で反対が賛成を上回り、「都構想」が敗れた▼二〇〇八年二月橋下徹大阪府知事が誕生し、「都構想」なるものが騒がれはじめ、二〇一一年十二月には府知事・市長のダブル選挙で橋下市長が誕生した。市長が代表の大阪維新の会を中心とし「都構想」実現に動き出したが、野党は「反対」の立場を明らかにした。これまでになく各党が連携し住民投票が闘われ、市民を二分する結果となった▼報道では、中年以上は「変化を求めず大阪市の存続を願っている」、これに対し若者は「逼塞感を感じ変化を求めている」と分析している▼莫大な負債を抱える大阪市。この問題の解決と、市民の立場に立ち市民が納得する形での改革は、いずれにしても必要ではないか。

二〇一四年度 事業活動報告(要旨)

二〇一五年には七十五歳高齢者比率が十八・一%となり、これによる社会保障費の増大が必至の中、二〇一五年年度の介護報酬・医療報酬改定、社会福祉改革などについて、社会保障審議会で議論がなされました。

厚生労働省は、高齢の介護報酬は二・七%減、障害はプラスマイナスゼロ改定となったものの実質的にはマイナス改定となりました。

他方、介護職員の処遇改善が充実され、月額一人二万七千円(一万二千元増)と改定され、「社会福祉法人改革」が審議会(福祉部会)で議論されました。

議論の中では、法人の「内部留保金(繰越金)」が多いとの指摘が民間委員からなされるなど、カバナンス、財政規律・透明性、地域貢献等々についての指摘が報告に反映され、「社会福祉法人改革」の柱となっています。

この指摘や報告について当法人として反論したい点は数多くありますが、地域貢献事業や施行される生活困窮者自立支援法など検討すべき課題もあります。

社会福祉法人への課税が二〇一五年度税制改正では見送られました。予断を許しません。

二〇一四年度の福祉をめぐる状況は、民間営利企業の介護事業参入にともない、社会福祉法人の公益性を超えてイコールフットリングが強く求められるという厳しい状況にたつてきました。

Ⅰ. レインボープラン十年計画の推進

「社会福祉レインボープラン十年計画」は、介護付き有料老人ホーム「リュミエール加島」、豊中市の障害者就労継続支援A型事業「ル・プラス」など第一期が二〇一三年度で完了しました。

十年計画では、第二期として①保育事業、②児童養護、③人材確保と人材育成(当初は「医療・福祉専門学校」)を掲げてきました。

しかし、二〇一四年度は、諸事情により第二期に備え資金・人材などを蓄積すべきと判断しておりました。しかしながら、十月に大阪市が旧加島人権文化センターを売却するとの情報を得て、状況は一変しました。

法人本部は、大阪市へ「当該物件の加島友愛会への譲渡」の要望書を提出するとともに区内市会議員への協力要請を行い、十二月には大阪市当局と協議を行いました。

結果的には、要望書について大阪市は拒否し三月に一般

競争入札による売却が実施されました。入札の結果当法人が落札、四月十六日には、旧加島人権文化センター二、〇八四坪の敷地が当法人所有となりました。

Ⅱ. 豊中市での事業展開

豊中市で始めた障害者就労継続支援A型事業「ル・プラス」は、「ふとん類のリサイクル」の売上が月額四百四十六万二千元、一日平均利用者数十五・四人、一般企業への就労移行二人と開設二年目で目覚ましい実績を上げています。

また、十月には豊中市の緊急雇用事業を受託し、六人の障害者が利用するなど順調に事業展開しています。豊中市での更なる事業展開を図るため、精神・知的障害者の中でも自立度の高い人を対象とした就労移行支援事業を開設すべく活動してきました。

Ⅲ. 職員について

法人全体での職員数は、本年四月現在、合計三百七十七人(うち兼務七人)となります。

平均勤務年数は、本務職員が男性八年十ヶ月、女性七年三ヶ月で、全体では男性五年〇ヶ月、女性四年八ヶ月となっています。

昨年四月現在の実職員数三百十人の有資格者は、介護福祉士四十九人、社会福祉士九人、社会福祉主事二十四人、看護師・准看護師十三人など九〇%以上が福祉・医療などなんらかの資格を有しています。

全国の他法人同様に、当法人・施設も職員の離職問題、定着性の課題は深刻さが増しています。

慢性的職員不足の中で、新人職員の育成がままならず、事故発生防止を念頭に中堅以上の職員がカバーしているという厳しい現場状況の改善が進んでいません。

職員の処遇については、二〇一四年度四月に全職員の昇給賞与は本務職員には夏・冬二回基本給の四・五ヶ月を支給しました。

また母子・父子世帯など単親で扶養する職員、障害児(者)がいる職員には扶養手当の単価を引上げるなどの優遇措置を講じてきました。

障害者雇用数は二十三人で障害者雇用率十七・二八%となっています。

当法人の社会福祉事業が、加島・三津屋地域だけでなく、社会的弱者とされる人たちの雇用促進など地域社会に貢献できるよう努めました。

Ⅳ. 人事考課(評価)制度の実施

本務職員に対する人事評価を年二回実施し、評価の結果を夏・冬季賞与に反映させました。

課長以上の管理職についても二〇一四年度の業務評価、職務遂行能力についてアンケート形式で自己評価させ、その上で二〇一五年度の基本給を理事長が総合的に評価・決定しました。

介護報酬などの収入が国・大阪市の抑えられています。より質の高い福祉サービスを提供するしくみとして、人事考課制度は実施しなければなりません。

Ⅴ. 事業実績と事業収支

総じて、福祉事業は順調に発展的に運営され、事業収入は二・四七%増の十六億七千二百万円に、実職員数も三百十人、サービス利用者数が千人を超えるという規模に達しました。

現場状況把握と業績向上を図るため、理事長がリュミエール加島および加寿苑の月例の運営会議に参加してきました。

リュミエール加島は、現場職員の努力により年度目標には達していないものの稼働率九〇%は視野にあり、収支も大幅に改善しました。

特養とデイサービスの稼働率には課題を残すものの、加寿苑も職員の意識改革が徐々に進んできていると思えます。五月には欠員補填され新年度は順調に実績を伸ばすでしょう。

二〇一四年度の利用者数は、高齢福祉で四百五十二人、障害福祉でリンク卒業者会百四人含め五百六十七人、合計千九十九人ありました。

うち加島・三津屋地域内の利用者が、高齢者部門では四百三十二人約四二・四%と多くを占め、障害者部門では百二十八人の二二・二%となっています。

障害福祉サービスには大阪市内全域から利用いただき、豊中市内の利用もル・プラスが昨年より増加しています。

Ⅵ. 米の産直交流、ジョブコーチ人材育成、国際貢献交流

滋賀県JA東びわことの「顔の見える安心・安全な米の産直交流」は、住吉の仲間と始め二十年目を迎え、田植え稲刈りに参加しました。当法人の米購入量は、一万七千六百七十五kg(前年度約一万七千二百kg)の増加実績となりました。

障害者職場適応援助者(ジョブコーチ)の第五回目養成研修には、全国から六十人が参加し大きな成果をみています。

今年も、JICA(国際協力機構)の委託によりマレーシアの障害者雇用促進の人材育成に関わり、講師派遣や見学受け入れをしました。

フレッシュな職員から

この春から各施設で働いている新人職員を紹介します。



加島希望の家

しのはら たくや
篠原 卓也

加島希望の家で生活支援員として勤務しています。夜間の専門学校生時代から働いていましたが、4月からは本務職員となり毎日、楽しく利用者さんと接することを心がけています。

利用者さんには、気持ちをうまく伝えることができない方や、コミュニケーションが難しい方もおられますが、一緒に作業や余暇を過ごす中、今までできなかったことができるようになった時にとってもいい表情をされます。その表情を見られた時はとても嬉しく思います。

これからも、一人ひとりの利用者さんに合った支援ができるよう、自身も成長していきたいと思っています。



アンダンテ加島

はやし ゆうすけ
林 勇介

私は学生時代にアンダンテ加島で実習した事を機に、知的障害のある方達の生活を支援していきたいと思い、この施設で働くことを決意しました。

働いてみると分からないことも多く、毎日が勉強の日々ですが、少しずつ少しずつ自分に出来ることを増やしていきたいと思っています。

そして利用者の方たちと関係性を築いていく中で、自分に何ができ、どういう支援を行なえるのかを常に考えていけたら一番良いのではないかと考えています。



加寿苑

あらい もとき
新井 基生

高校の福祉科を卒業し、介護福祉士の資格をとって加寿苑に就職しました。

この仕事をしていて「良かったな」と感じる事がよくあります。

利用者の方に「ありがとう」と言われ、自分が役に立っていると感じられる時などです。

その気持ちが、この仕事を続けられること、自分を支えることにつながっていくのだと思います。

先輩の体験談などを聞いて、知識を増やし、それらを活かして頑張っていきたいと思っています。



地域生活支援部

なかの さおり
中野 沙央里

4月から正職員となりました。アルバイト時代から意識していることは、利用者さんが毎日、快適に楽しく過ごしていただけるよう考えながら仕事をしています。日々、快適に楽しく過ごすとは何かを自分なりに考えて、「利用者さんと話をし、楽しいことを共有する」、「美味しい夕食を提供し、満足していただく」、「余暇の時は利用者さんが楽しめそうな場所に出かけ、満足していただく」など毎日、心がけています。

利用者さんとの関わりの中で言葉のコミュニケーションが難しい方も多く、コミュニケーションがうまく取れず悩むことは今でもあります。しかし、なかなか心を開いてくださらない利用者さんが好きな歌手の話をしてくださったり、私と一緒に外出をするのを楽しみにして下さる方、悩み相談を打ち明けてくださる方もいるので、本当にその時は利用者さんとの関係が少しずつ築かれているように感じます。何よりも利用者さんが笑顔で心を開いてくださるこの瞬間が、この仕事をしている時の一番のやりがいでもあり、喜びでもあります。

新たに事務仕事という業務が加わり、わからないことだらけでできないことも多いですが、職員として少しでも早く先輩職員に近づけるよう頑張ります。



Link

とくひさ ちなつ
徳久 智夏

今春に専門学校を卒業しLinkで働いています。働き始めて3ヶ月程経ち、少しずつではありますが慣れてきて利用者の方ともいろんな話をする機会が増えてきました。まだまだ未熟な身ですが先輩方を見習い頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

加寿苑

もうお腹いっぱい！ー風月のお好み焼きー



五月二十六日、お好み焼きの風月さんがボランティアに来てくださり、お好み焼きを百三十枚ほど焼いてくださりました。これは風月さんが企業の取り組みとしておこなっているもの。大阪府下を地域別に一年間まわっており、今年度は五月が淀川区の時期となりました。当日は入所者とデイサービスの利用者の昼食用として提供しました。

今日の昼食は一年ぶりの風月のお好み焼き。

フロア内にお好み焼きの良い匂いが漂っており、来苑された皆さんは「おいしい匂いやな〜」「まだ十時やのお腹空いてきた」と、とても楽しみにされていた。

昼食時に運ばれてくると、「おいしいわ〜」と大満足の皆さん。ふだんは少食の方もペロリと召し上がられ、「次はいつ来てくれんの?」と大好評だった。

お替わりされる方もいらっしやう、いつも以上にぎやかな食事となった。

(デイサービスの日誌より)

来年も、是非よろしくお願ひします。



リュミエール加島では、三月二十六日に万博記念公園で外出レクリエーションを行いました。花の方はあいにく桜満開とはいきませんでしたが、梅や椿やパンジー等の花がきれいに咲いていました。

花や景色を見ながら公園内を散歩していると「私ここに来るの四十年以上ぶり」と、懐かしそうにされる方。「子どもが可愛いわ〜」と、遠足に来ている幼稚園児たちを見て嬉しそうにされる方。「あそこにも花が咲いてるで。きれいやわ〜」と、花を見て喜ばれる方。「私、あのソフトクリーム食べたい。あ！おでんと、たこ焼きも食べたい!」と、出店の食べ物に興味を示される方。

皆さん、それぞれ色々な気持ちをいただきながらの、お散歩兼お花見となりました。

お昼ご飯はレストランで食べるグループと、公園で食べるグループに分かれました。レストランで食べたグループ

は、久しぶりの外食を満喫されたようで、公園で食べたグループは「皆でお日さん当たりながら花も見れて、お弁当がより美味しかった」と、どちらのグループも昼食に満足されたようです。

施設に帰ってからは「今日はありがとう」「今までで一番楽しかった」「幸せ。また連れて行ってね」等を、参加された全ての方がおっしゃってください、外出レクリエーションを喜んでいただけたようです。(石川)

お花見で万博公園へ



太陽の塔をバックに記念撮影

リュミエール加島

田植えにいらってきました

5月24日(日)、滋賀県JA東びわこ「ふれあい農園・田植えツアー」に行ってきました。ふれあい農園も、21回目を迎え、希望の家でも毎年楽しみの恒例の行事となっています。

私もこの田植えツアーに入職当初から参加させてもらい毎年かかさず参加させてもらっています。初めて参加した時は、田んぼに入ったこともなく、すべてが初めての事ばかりで、一植えの苗の本数や間隔、植える深さなどコツがあり実際やってみると難しい作業でした。何度か土に足を取られ、泥んこになった事が懐かしく思います。

ここ数年は新しい職員に教えられるぐらいにまでなりました。ふらつく職員を見ていると、懐かしく思います。今年も田んぼの冷たい土と水の感覚は心地よくてたまりませんでした。

田植えの後は生産者の方たちとの昼食交流会です。みんなで乾杯/体を動かした後のお茶やジュースは格別です。食事でも色々用意していただき、カレーライスやフランクフルト・焼きそばなど何から食べようか悩みましたが、全部頂きお腹がいっぱいに(笑)。

食後は利用者さんと敷地内を散策しながら、特産品の見学・買い物やポン菓子の見学、トラクターのスタンプラリーに参加など楽しい時間を過ごしました。最後に全員集まって抽選会の始まりです。皆さん自分の名前を呼ばれないかドキドキしながら舞台へ注目、当選された方の周りでは大きな拍手と共に歓声の音があがりました。希望の家のメンバーも多くの方が当選しました。閉会式も終わり、お土産を沢山持ってバスに乗車、大阪へ無事帰りました。

あっという間の楽しい一日でした。いつも温かく迎えて頂き、色々なイベントや食事など準備して頂いたJA東びわこの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。(藤原)



余暇活動で鶴橋へー食事と銭湯ー



5月のゴールデンウィーク中に一日余暇として、午前中から夕方まで数名の利用者の方と外出しました。内容としては鶴橋に行って焼肉を食べて銭湯に入り、一日通して楽しく過ごそうというものでした。事前に行き先を伝えると、何度も行くことを確認される方や、中には本を見て外出先の事を調べる方もいて、皆さんとても楽しみにされていました。

当日は連休に相応しい行楽日和。出発前から早く出かけたのが、少しそわそわした様子で楽しみにされているのが感じられました。同行する職員もそんな利用者の方々の様子を見て計画をして良かったと感じていました。

アンダンテ加島を出発して電車を乗り継ぎ、いざ鶴橋へ。移動の最中も皆さん笑顔で楽しく話されており、ワクワクされている姿が印象的でした。

鶴橋に到着し、昼食の焼肉屋へ。みんなで焼肉を美味しくいただきました。焼肉が美味しく利用者の方も職員も食べるのに夢中になって黙々と食べていました。食後には「美味しかった」と皆さん大満足の様子でした。

その後、近隣の銭湯へ。皆さんゆっくりと数種類の湯船に浸かり、入浴後には軽食をとってリフレッシュ。その後、「鶴橋の商店街を見たい」との要望があり、帰りの道中で商店街に立ち寄りました。商店街の活気や訪れる人の多さに驚きながら、皆さん興味津々の様子でした。

一日余暇から数日後、参加された方が写真を見て当日を振り返りながら、「また行きたい」「商店街すごかった」「焼肉美味しかった」等と話されており、楽しく過ごされたことがうかがわれました。

アンダンテ加島では、休日に余暇活動として軽食・カラオケ・銭湯・料理等の活動を行っています。半日の外出が多いのですが、一日余暇は外出時間が長いので、他の余暇活動ではなかなか実施できないことを行うことができ、利用者の方々も楽しみにされています。また様々な社会経験を積むことができる貴重な機会ともなっています。職員も施設内では行えない活動を外出先で一緒に行うことで、普段では見られない仕草や表情を見ることができ、皆さんの新しい一面を知る機会にもなっています。

今後も利用者の方々が楽しく過ごせて、また新しい経験を積むことができる余暇活動を提供していきたいと思います。(南井)



「計画相談支援」4年目

「COCOLO」相談支援センター

「計画相談支援」が2012年度からスタートして、早くも4年目を迎えました。

「計画相談支援」では相談支援専門員が障害福祉サービスを利用する方の希望を踏まえて、サービスの利用に必要な時間や頻度、内容などをプラン（「サービス等利用計画」）にまとめ、サービスの導入、各関係機関との連絡調整、課題のふりかえりやサービスの見直し（「モニタリング」）などの支援を行っています。

しかし、実際にはサービスの調整等だけで支援が終わることはほとんどありません。ご家族や近隣への対応、病院や自宅への訪問、時には自宅の引き払いや転居先の手配、掃除・洗濯・買い物の代行、通院の付き添いなど、制度や支援のすき間を埋める対応を伴うことが多いです。

また、その場で支援の見直しについて求められることも多く、分刻み、秒刻みで仕事を行っている毎日です。そのためバタバタと時間だけが過ぎていくような気がしますが、忙しい時だからこそ、何気ない相談にも丁寧に応じ、支援に必要な「質」を高めていく努力もしていきたいと思えます。

かしま障害者センター

夜間体制を夜勤に

地域生活支援部

ここ数年グループホームを取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。年度が変わるごとに何らかの制度改革が行われています。もちろん入居者の方の不利益になるような変化はないよう考えられているため、大きく生活環境に影響するということはありません。

今年度からは、夜間の世話人体制を宿直から夜勤に切り替えることになりました。従来の宿直に比べ、夜間の状況把握や個別対応をより細かく行うことができるため、体調管理をはじめ生活リズムの調整などの支援に反映できるようにしていきます。

また、新しい入居者の加入と生活環境の見直しのため、いくつかのホームで入居者の入れ替えを行いました。早く新しい環境に慣れてもらえるよう世話人・入居者協力して積極的なコミュニケーションを心がけています。

生活環境、支援体制、変化の大きな年度となりますが、新しい入居者と新しい職員を迎え、地域生活を充実させられるよう尽力していきます。



グループワークに取り組む

むつみ

むつみの就労継続支援B型では、不定期ではありますがグループワークを行っています。

作業場面とは違った形での活動で、7～8人の人数でテーマに沿って考えたりみんなで話し合ったりします。作業時のマナーがテーマの時には、例えば大きな箱を持って人の後ろを通る時に、どんなことに気をつけるか、また、何と言ったら良いかを、意見を出し合い、実際にその場でやってみたりしました。

冬の時期には「風邪の予防について」をテーマにし、まず一人で考えて紙に書き出し、それを発表して話し合ったり、手洗いやうがいの方法を一緒にやってみました。終わった後にはその時に行った事を意識して実行している人もいます。普段から活動の中で伝えていくことはもちろん大事ですが、改めてこういう場を設け、一緒に考えたり話し合うのも大事だなと感じています。普段見られない一面もあり、一人ひとりの強みや課題を

知る機会にもなっています。

今年度も支援のあり方を常に見直し、楽しく充実した一年になるようスタッフ一同心を一つにしてがんばっていきます。



クリーニングにチャレンジ

ル・プラス



今年は、春先より白衣類のクリーニングの仕事にチャレンジして

います。今後のル・プラスにおける作業面、収益面の軸にと考えて協力会社さんにご協力いただいて取り組み始めたアイテムです。

それに伴って、今年2月より、大型洗濯機2台と大型乾燥機2台、増設のボイラー1台を新規導入して、洗濯乾燥の処理能力を拡充しました。機械の新設に合わせた既存設備の配置換えでは、安全通路や台車置場といった場内整理も行いました。あらためて工場を見渡すと、不必要な物や使っていない物が多くあるなど感じました。整理整頓をすることは、作業の工程管理や安全管理に影響します。

今年はアイテムや物件数が増えて、これから夏場のふとん洗濯も本格化してきますので、いつもきれいに整理された職場で、やりがいをもって働けるような環境をつくっていきたいと思います。

また、昨年度は2名の方が一般企業に就職されていきました。今年度もル・プラスで働くことの楽しさや厳しさを感じてもらって、一般企業への就職を希望される方にはそのサポートを続けていききたいと思います。

新しい利用者を迎えて

Link

今年度Linkでは、就労移行支援事業に9名、自立訓練事業に2名の新しい利用者を迎えてのスタートとなりました。就職者は計100名を超え、事務補助業務や調理補助業務、保育園での清掃・庶務など、職種も広がってきています。社員旅行の案内を持ってくる方、正社員になったことを報告してくれる方など、就職してからのいきいきとした姿に、職員一同励まされます。



また、就労継続支援事業B型の取り組みも新たな広がりを見せています。それは、海外とのつながりです。

一般社団法人MAST支援会のご支援のもと、家庭にあるぬいぐるみを洗い直し、海外の福祉施設等に寄付する事業に参画させていただき、その洗濯作業に取り組んでいます。ひとつひとつ丁寧に愛情込めて取り組む姿から、これまでの作業とはまた違う達成感や誇りを持っている様子が伝わります。そして、こうした取り組みを発信したいと、新聞やテレビにも取り上げていただきました。

今年度も単に働くことだけでなく、利用者や就職者の皆さんが「働きがい」や「やりがい」を持てる支援をめざしていききたいです。



❖ 加島友愛会後援会 ❖

後援会にご加入いただき、ありがとうございます。紙面をお借りしてあつく御礼申し上げます。会費の2014年度の納入状況をお知らせします。今年度もよろしくご協力をお願いします。

後援会加入状況	団体	16団体	20口	200,000円	
	個人	164人	201口	605,000円	合計 805,000円
					(新たに個人会員として12人に加入いただきました)



▲昨年度は加寿苑の中庭を整備しました

— 参考 (2013年度納入状況) —

団体	14団体	18口	180,000円	
個人	152人	188口	557,000円	合計 737,000円

引き続き、加島友愛会後援会をよろしくお願いいたします。

ジョブコーチの国際セミナーに参加して

かしま障害者センター Link 玉城由美子



実践を学ぶために訪日された際には、Linkの見学や、障害者を雇用している企業への視察をコーディネートして関わってきました。

五月五・六日にマレーシア(クアラルンプール)で開催された『アジア太平洋地域ジョブコーチセミナー』に、マレーシア政府から招待をしていただきました。

マレーシアは二〇〇九年からJICA(独立行政法人国際協力機構)のプロジェクトのもと、国内のジョブコーチの人材養成や制度設計を進めています。加島友愛会では、このプロジェクトの専門家派遣や研修受入れ機関として、酒井館長が専門家としてマレーシアに渡り養成研修をサポートしたり、日本での実



マレーシア社会福祉局の皆さんと

今回のセミナーはこのプロジェクトの集大成として、マレーシアがホスト国となり開催されました。参加国は、ASEAN地域とフィジーや西ティモールなどのオセアニア地域の国々と日本を合わせ十六か国で、参加者は三百名でした。私は日本の実践報告者として、ジョブコーチの支援を受けて就職した利用者OBの渋谷友里恵さんと一緒に発表をさせていただきました。セミナーは、基調講演から始まり、マレーシアのジョブコーチ支

援の実践報告やJICAの取り組みの紹介に続き、各国からの実践報告では、私たち日本の実践と中国やフィリピンの実践も発表されていました。

私はLinkの就労移行支援事業の取り組みと渋谷さんの支援経過を、渋谷さんは就職先である資生堂大阪工場での仕事内容や働いて成長したこと、今後の目標などを発表しました。

特に渋谷さんの発表は参加者の心をつかみ、『これからもずっと働きたい』『お母さんへ。産んでくれてありがとう』というメッセージの後には、その日一

番大きな拍手がわき起こるほどでした。

今回のセミナーへの参加を通じて、海外の国々でのジョブコーチのニーズの高まりや障害者雇用への関心の高さを目の当たりにすることができ、これまでにない感覚を抱くことができました。それは、自分たちの支援が世界共通で、その実践を日本がリードしているという実感です。そして、今まで以上に自分の仕事に誇りを持つことができました。わずか二日間のセミナーでしたが、私にとって一生に二度とない経験ができました。

リュミエール加島

介護付有料老人ホーム

四季の変化を
楽しんでいただける

介護付有料老人ホーム
リュミエール加島

空室 残りわずか

Bタイプ
一人居室 有り



慣れ親しんだ地域での
暮らしを応援します

地域密着小規模多機能型居宅介護
リュミエール加島ミント

利用登録受付中

リュミエール加島入居、
ミント利用の相談・見学・体験

お気軽にお問い合わせください。

フリーダイヤル 0120-087-322
(9:00~17:00)

電話 06-6308-7788